

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671400143
法人名	社会福祉法人 長和会
事業所名	恵光園グループホーム さくらの里
所在地	鹿児島県垂水市中央町37番地2 0994-32-1881
自己評価作成日	令和4年10月24日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様や御家族の皆様の安心安全を最優先に考慮し、笑顔に溢れ、笑い声の絶えない施設をモットーに日々研鑽している。又、近年施設周辺の空き地に住宅が建ち並び、若い世代や子供が増えた事で近隣の方々と触れ合う機会も増え、利用者の皆様の活力につながっている。本年も昨年同様、ご家族との面会や外出において規制を設けてきたが、期間限定での面会を実施させて頂いた。面会されている時の喜びに満ちあふれた皆様の表情が印象的で、今後も笑顔を絶やすことの無い支援を提供していこうと実感した。又、施設内の行事を充実させたり、垂水市内の観光地や自宅周辺へお連れし、気分転換を兼ねたドライブなどをおこなっている。

経営方針については、母体の特別養護老人ホームの経営理念を実現する為に、スタッフの資質向上に向けての教育・育成に傾注している。施設長がアドバイザーとなる職員会議では、スタッフ自ら様々なテーマを取り上げ、実習を含めた勉強会を開催し業務へ反映させている。今後も日々研鑽し、高揚感に満ち溢れた職場環境作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、平成15年に本城地区で母体法人の特別養護老人ホームに隣接して開設されたが、平成28年の台風による河川氾濫により浸水被害に遭い現住所地に移転している。隣りに大型スーパーがあり、小学校や高校、コンビニエンスストア、銀行、市役所などが立ち並び幹線道路から程近く利便性がよい。広大な敷地には木々が植樹されており周辺の住宅とは一定の距離感があるため開放的な住環境であり、散歩がてら隣のスーパーに門扉を通り容易に移動して買い物に行ける立地環境である。平屋の木造建築で周辺の住宅に溶け込み、落ち着いたある住環境である。

地域とは、新型コロナウイルス感染禍であるため地域交流を自粛しているが、「介護相談所」として、認知症介護や施設入所について一般市民から相談を受け入れており、法人の担当職員と連携し相談を受けるなど地域貢献をしている。

地域振興会との協力関係があり、七夕の飾り付けに参加したり、運営推進会議は、直接面談にて行われ事業所の取り組み状況を報告し意見交換している。

開設当初からの理念は、「いつでも、どこでも、その人らしく」を掲げスタッフ会議において唱和されている。職員は、利用者の個性を尊重し、家庭的雰囲気の中でその人らしく穏やかに安らぎある暮らしができるよう努めている。「マナー5原則」は理念とともに職員に意識され、「敬うという気持ち」を重視しておりプライバシー保護や身体拘束等適正化を図るための支援に対しても大きく影響している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎月実施している全員参加のスタッフ会議において、運営方針・経営理念を唱和し、内容の再確認、に努めると共に、施設内にも掲示している	開設当初からの理念は、毎月、スタッフ会議において職員全員で唱和され振り返りをおこなっている。「敬う気持ち」を重視し、言葉の使い方には特に気をつけるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域密着事業計画で様々な計画を掲げているが、県内、市内の感染状況を考慮しながら、時節のイベントや食材の調達など可能な活動については実施している	地域振興会とは、「認知症カフェ」を通じて交流していたがコロナ禍のため一部活動を自粛し、今年の夏は地域七夕祭りの飾り付けに参加している。法人と連携し、認知症介護や入所申し込みに応じるなど介護相談所を設け地域貢献をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症介護相談所を開設し、地域住民の相談について、適切な支援できるように心掛けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の影響により、開催回数を縮小している状況ではあるが、運営推進会議の意義を含め、ご家族との情報交換をこまめに行い、ご意向や提案を職員へ反映し、サービス提供に活かされるように努めている	会議は、年2回程度対面にて開催されているが、法人のコロナ対応方針があり家族は参加を見合わせている。これまでは、輪番制で家族は会議に参加していた。コロナ感染症の拡大予防のため、行政指導もあって回数は相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍である現在は、主に感染対策やサービス提供に対する情報交換を行っている。また、月に数回市役所へ出向き入所の相談や困難事例等の報告、協力関係を築くようにしている	法人の担当者と連携して相談支援をおこない、行政からの郵便物は、市役所の専用ポストで預かりになっているため、職員は引き取りに行く際、職員と面談し情報を共有したり意見交換し相互に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や、利用者様の気持ちに寄り添う事の大切さについて学ぶ機会を持ち、常に思いやりを持ってケアする事に取り組んでいる。また、利用者様の安心安全を最優先している	身体拘束等適正化のための指針があり、毎月のリーダー会のなかで具体的にテーマを設定して会議をおこなっている。職員は、マナー5原則を意識し業務に取り組んでおり、尊厳を意識したケアに努めている。また、事例検討などの研修をおこない、虐待や権利擁護に対する意識も高め制度の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会や内部研修を通じ学ぶ機会を設けている。また、事例検討会でディスカッションする事で、虐待に対する背景が明確となり、業務に活かすように取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する研修を通じて理解を深め、職員へ周知している。また、利用者様の権利が侵害される事のないよう、制度についての説明が出来る様にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書に基づいた説明をし、納得、理解していただけるように努めている。又、分かり易い文言での説明を心掛け、不明点や疑問点はその都度、正確に回答できるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス提供についての意見や確認の電話などの機会を通して利用者様やご家族の意見や要望など、可能な限りの対応を心掛けている。アンケートの評価や内容についてはノートなど活用し共有している	遠方に居住する家族の心配を軽減するため、電話やラインなどの活用により日々の暮らしぶりや事業所の取り組み状況などを説明し、意見、要望などを聞き取り業務改善やサービスの向上に努めている。担当職員は家族から信頼されており、全職員は気づいたことを専用のノートに記載して職員全員で情報を共有するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案に対して、しっかりと向き合い、個別あるいは全員に対して対応ができるよう心掛けている。	理念やマナー5原則を意識し業務に取り組んでいる。必要に応じて管理者との面談を実施し、法人のストレスチェック、職場環境の整備や給与体系、定年後の再雇用、研修体系を構築しスキルアップが図れるよう取り組んでおり、職員の関係性も良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境にするためのマナー5原則を周知するなど健全な人間関係の構築に努めている。手当の増額をするなど随時、公平な処遇改善に努めている。65歳定年制であるものの、その後についても希望者全員が再雇用として就業可能である		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>キャリアパス制度の導入により資格取得のための助成も行っている。OJT・OFF-JTへの参加も促進している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>OFF-JTが交流の場であったり、交流会の切っ掛けとなっている。地域包括ケアシステムの枠組みの中で行政及び関係機関と意見交換を行っているがコロナ禍において調整中である</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>認知症対応型の事業所であるため入居時に利用者様本人からの要望を把握することは困難な場合が多いが、少しでも理解を深め合えるよう努め、入所後の関係性づくりに心がけている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時又は入居前において話をする機会をもち、関係性を築きながらご家族が不安に感じていることに対して支援、アドバイスができるよう努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居当初、優先順位を見極め、確認とアドバイスをしながら対応できるようにしている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>「一緒に生活をする人」という安心できる関係性が築けるような声掛けや態度で接し、共に食事し家族同様に安心していただけるよう心がけている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されていても利用者様の一番の支えはご家族様であることを考えながら、共に利用者様を支えることができるよう、また、ご家族様の思いも大切にしている。必要に応じて電話等で対話の機会を設けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあって電話やリモート等の媒体を利用したり、面会や手紙、宅配など馴染みの方との交流を大事にし、利用者様のこれまでの生活を尊重して支援にあたっている	公園や近隣の散歩の時、地域住民と顔見知りになり挨拶を交わしたり、職員と隣のスーパーに買い物に行くこともある。職員は、電話の取次ぎや携帯電話の活用支援などで関係性が途切れることがないように取り組んでいる。ドライブは、利用者の自宅周辺に行くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者様ごとの性格や性質、行動パターンを考慮し、共同作業や余暇活動を共にに行い、利用者様同士が関わり合える時間がもてるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な時には必要な支援を適切に提供できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日々の暮らしの中で、個々のその人らしさを大事にしながら、利用者様の思いや意向をくみ取れるように心掛けている。意思疎通が困難な場合は感受性をもって接している	家族によってはグループラインを活用して職員と本人の思いや意向について語り合い、本人に寄り添ったケアの実現を目指している。意思表示の難しい方は、コミュニケーションやスキンシップにて思いに触れるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との日々の会話やご家族からの情報から、これまでの生活歴など把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	余暇活動やお茶の席で、話題を通じてこれまでの生活や嗜好等、情報を得ている。また、勤務者の報告や生活ノートの記録で情報の共有を図っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	病院受診の機会や、電話で状況報告して、ご家族のご意向や意見等を受けている。職員とは毎月のケースカンファレンスで利用者一人一人の状態を全員で検討し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている	本人や家族の思いや楽しみなどが反映された介護計画書になっており、生活記録などを参考にしたり、スタッフ会でケース検討をおこない、毎月のケース検討会では全利用者のケース検討が実施されている。3ヶ月毎のモニタリング、ケース検討会では目標やサービス内容について柔軟に見直しなどがされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の勤務者からの報告や生活ノートによる記録などで情報の共有を図り、利用者様一人ひとりの個別の現状把握に努め、必要時は支援計画変更をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様はあくまでも”個”であるということを念頭におき、固定観念に捉われないように利用者様の状態に配慮しながら支援やサービスの提供を考えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居されている方でもご家族と一緒に市の開催するカフェに参加できるような支援も行っているが、コロナ禍において参加を見合わせている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されても入居前からのかかりつけ医を受診していただきながら定期受診時には情報提供をしている。継続した医療提供を支援し、必要に応じて訪問診療や訪問看護の支援も行っている	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、外来受診や他科受診は家族対応であるが、他県に居住するなどして対応が厳しい家族については職員が対応している。急変時などは、主治医との連携や協力医療機関との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>午前午後のバイタルサインの測定時や日常生活における体調の変化などについて、職員間で情報を共有しながら重症化、重篤化する前の対処ができるように支援している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>介護情報の早期の提供や相談員を通じての情報共有などで入院中においても継続的な支援提供がスムーズに行えるようにしている。ご家族との連絡も必要に応じて行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>内容的にご家族との関係性が重要となってくるが、利用者様は高齢であることから入居時から急変時の対応、グループホーム内で対応できること、できないことについて大まかに説明をするようにしている。既に看取り支援も行っており、ご家族のご意向に添えるようにしている</p>	<p>「急変時（終末期）について」の指針があり、今年8月に看取りを経験している。遠方の家族などには看取りの状況を動画や電話などで連絡したりしており、地元の方には直接来訪してもらいともに看取りを実施している。グリーフケアの実施があり、職員は、スタッフ会で振り返りをおこなっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応や心肺蘇生など研修で実施しており、実技や座学で学習し自施設でも勉強会を取り入れている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の総合防災訓練を計画的に実施し、コロナ禍に於いてはビデオを利用しての研修や、また勉強会でも取り上げている。近隣に住宅がたち始め、近隣の方々との交友を深めて、災害時の協力体制を整えられるようにして行きたい</p>	<p>当ホームは、以前水害に遭い3年前移転している。コロナ禍であり、避難訓練は、ホーム単独でおこないDVDを活用して勉強会を実施している。事業所は、住宅街に位置しているが、コロナ禍でもあり交流ができていないため管理者は、今後、地域交流をおこない協力関係が築けるよう検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権を尊重し、先輩であるという尊敬の思いを忘れることなく、日々スタッフ同士で反省・注意喚起し、障害のある利用者に対しても表情の動きや言動等から読みとり、人格を損ねないようにしている。権利擁護の観点から、ひとり一人のご意向に添えるよう配慮している	マナー5原則を周知するなどして、接遇マナーについての意識が高く、身体介護など直接介護の場面では特にプライバシー保護や羞恥心、声のトーンなどに気をつけるよう心掛けており、介護記録など個人情報の取り扱いにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	他者との会話をあまり持たれない方でも孤立する事のないよう見守り声掛け誘導し、話をしやすい環境の提供やゆっくりとした時間が提供できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われてしまうと施設側の都合で、ということになってしまうため業務内容を検討し利用者様の希望に添えるような支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	コロナ禍に於いては外出や買い物の同行が減っているが、入浴日に服の好みを伺ったり、毎朝鏡の前で髪を整えて頂いたり、個人用の化粧水等をつけて貰っている。又、入浴後の着替えをご自分で準備出来るように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の残存能力や性格を考慮し、食後のテーブル拭きやお盆拭き、また、その日に使用する食材の下ごしらえ等の声掛けをしている。また、食材等には季節を感じられるような配慮もしている	職員は、食事介助や見守りをしながら利用者と一緒に食事を摂っている。食材は、ネット注文の活用、利用者と一緒にスーパーへ買い物、肉、魚などは地域から調達、家族から野菜の差し入れなどがある。能力に応じた手伝いも頂戴している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量などは個々の状態を考慮し準備をしている。水分に関しては主治医と連携をとりながらしっかり摂っていただくように声掛けしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の状態観察を兼ねて歯磨き、うがい、口腔清拭などを実施し、必要時歯科受診をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中の排泄は可能な限りトイレに座って頂き、感染症予防に心掛けている。排泄のパターンに応じた声掛け誘導もしている。出来る範囲の拭き取りの声掛けや見守り支援をしている。	職員は、排泄のリズムを把握しておむつに頼らないケアを目標に排泄の自立支援に取り組んでいる。布下着の方もおられ、定時や本人のサインを見逃さないよう支援している。おむつ使用についてはいつでも家族に説明ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維やオリゴ糖、水分摂取などで自然な排便を目指し、状況においては定期的に排便がみられるように座薬などの使用を試みている。必要に応じて医師へ相談をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者様の希望の曜日や時間帯に自由に入浴して頂くことは出来ていないが、週3回の入浴ではひとり一人の尊厳に配慮しながら個浴提供し、日曜日には足浴を支援し楽しんで頂けるように配慮している	ユニットバスの浴室と、リフト浴で広々とした洗い場である浴室があり、サッシから中庭を望むことができる。身体機能の変化、また、本人の希望や必要性に応じていつでも入浴が楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にリハビリや生活リハなどを提供することで離床して活動時間を増やし、夜間よく休んでいただくようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に対しては介助で服用される方が多く確実に服用していただけるようにしている。副作用についても考慮しながら服用していただいている。必要に応じて医師や薬剤師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホーム内で生活していただく中で家事のお手伝いができる方にはしていただいたり、リハビリの時に楽器演奏をしていただくなどの役割分担をしていただき、楽しみや自分のやれることを経験していただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に於いて外出の機会が減っているが、可能な限り外出できるよう車窓ドライブ等も計画している。気候や天気などを配慮しながら園庭に出て花をみたり風を感じたりしていただけるような支援に心掛けている。また、帰宅願望や不穏が生じた際には気分転換にドライブを実施している	日々、天候や利用者の希望に応じて敷地内や近所の公園などに散歩に出かけている。毎月ドライブに行く時は、少人数で出かけている。ドライブは、なるべく本人の自宅周辺や馴染みの場所などに出かけたり、四季の移り変わりが感じられるよう花見見物などを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理については困難な方が多いため、ご家族に了承を得たうえで施設で管理をさせていただいている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの電話があった際には利用者様と話をさせていただいたり、はがきや手紙については利用者様がわかるような形で支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>気温や湿度などの配慮、五感に対し悪影響がないように配慮している。季節や生活感を感じていただけるように花や掲示物などを工夫し、対話の機会を得ながらコミュニケーションを図っている。野菜の下ごしらえ等の生活リハビリを含めて、レクリエーションでは音楽鑑賞、ゲーム等の言葉遊びでも季節を感じるような工夫を行っている。</p>	<p>廊下天井の天窓から自然の光が差し込み広々としており、共有スペースにはソファが配置され利用者がのんびりとくつろいでいる。対面式キッチンから料理の匂いや音などが五感を刺激し、料理の下ごしらえなどの準備をしたり食事を待つ利用者がおられ家庭的な雰囲気である。換気や消毒などがなされ清掃の行き届いた清潔感のある環境である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様には居室がそれぞれ完備されており、面会などの際には居室へ、リビングにおいてはほかの利用者様と自由に交流できるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に利用者様の馴染みのものや着衣なども自宅に着慣れたもの、枕も使い慣れたものを持ってきていただいている。また、写真や手紙など掲示物に配慮し、安心して過ごせるように心掛けている。誕生日には壁掛け用の手作りプレゼントを喜んで頂いている</p>	<p>居室は、入口の開口部を意識したベッドの出入りがしやすい環境である。全室フローリング、バリアフリーであり、腰窓から敷地内や近隣の景色を望めカーテン越しの柔らかな採光がある。馴染の物を持ち込み居心地のよい住環境である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレなどは十分な広さがある。手すりも随所に設置されている。洗面所も車いすでも使用できるよう高さも配慮している</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない